

このトトコラム 教えて！エリ先生

この時期の発達過程

1歳半を過ぎると出来ることがどんどん増えていき、活動の幅が一気に広がっていきます。小さな段差を登ったり降りたりが出来たり、障害物をまといで歩いたり、公園の遊具でも上手に遊べるようになってきます。

絵本にも興味が出てきて、集中して見てくれる時間が長くなっています。大人に読んで欲しい絵本自分で取りに行つて渡したり、自分でもページをめくって見たりします。絵本に出てくる食べ物を手で口に持つて「むしゃむしゃ」と食べるフリをすると、真似して一緒にやつたりもします。好きな絵本がはっきりして何度も同じ絵本を読んで欲しいと要求してくる事もあるかもしれません、お子さんが望んでいるなら何度も同じ絵本を読んでも大丈夫！気が済むまで何度も読んでもらうといいですね。

大人の言っている事も少しずつ理解出来るようになります、例えば「座ろうね」と言うと椅子のところまで行つたり、「歯磨きしようね」と言うと歯ブラシを取りに行つたりもします。

この時期に言葉が増えてきてお話ししてくれる子もいますし、まだあまり言葉が出てこないお子さんも、語りかけると表情豊かに応えてくれたり、コミュニケーションがますます楽しくなる時期ですね。

指先も器用になり、シールを剥がして張ったり、新聞紙をビリビリちぎるなどの遊びも楽しめます。指先に力を入れて「押す」ということも出来るようになってくるので、お出かけ先で押しボタンがあると押したがるのもこの時期。バスやエレベーターの押しボタンは何度も押されると困ってしまいます、遊びの中で取り入れながら押したい欲求は満たしてあげられるといいですね。蓋つきの箱やタッパーなどに、ギリギリサイズの小さな穴を開け、ビー玉などを人差し指の力で押しながら詰め込んでいれるような手作り玩具もおすすめです。（※遊び際は、ビー玉などの誤飲には細心の注意をしてください）

手掴みとスプーンを使いながら自分で食べたり、お椀を自分で持って汁物を飲んだり、自分で出来ることが増えてきます。まだ上手く出来ないことが多いですが、自分でやりたい気持ちが芽生えてくるので大人が手伝うと怒ってしまうこともあるかもしれません。さりげなく手を添えたり、お子さんが出来るところからは手を出さないように気をつけたりしながら、自分で食べられたという自信や自分で食べたいという意欲は大事に育ててあげたいですね。

この時期のお悩み

嬉しい、楽しい、喜びなどのプラスの感情の他にも、不安、悲しみ、恐怖、悔しさなど、複雑な感情がどんどん発達していきます。自分の要求が通らなかったり思い通りにならないとひっくり返って怒ったり、感情をストレートに表現してくるので、大人からみると「駄々こね」「かんしゃく」「わがまま」のように思えてしまい、悩んでしまう親御さんもいらっしゃるかもしれません。

しかし、子どもは決して大人を困らせたいと思っているのではなく、これらの感情表現も発達の大変な過程です。生まれたばかりの時は、色々な感情というのはまだなく、「快」「不快」しか無かった赤ちゃんが、成長と共に様々な感情が発達し、犬を見て怖いと感じたり、知らない場所に連れて来られて不安に感じたり、思い通りに出来なくて悔しいと感じる。まさに成長の軌跡ですね！

こんな感情も抱くようになったのね！とわが子の成長を喜びながら、「悔しいね」「悲しいのね」など、言葉にならない思いを汲み取って代弁したり、気持ちに寄り添って共感しながら受け止めてあげましょう。

まだ自分の感情のコントロールをすることは難しいですが、大人に受け止めて貰いながら、少しずつ自分で感情をコントロールしたり、やりたい気持ちと思い通りにならない現実との間に折り合いをつけていく事を学んでいきます。

井上エリ

子どもの心の根っこを育むcocorone主催。
アドラー心理学とモンテッソーリ教育を活かした子育て講座をオンラインで開催中。
また、自身の保育士経験も活かしながら保育士向けの研修も行っている。
アドラー勇気づけ講師、モンテッソーリ教師、8歳と1歳の女の子と男の子のママ。
インスタグラム、ブログも更新中。



STAGE8
(1歳6ヶ月～
1歳8ヶ月)



保育園がつくる
子育てサブスクリプション

パッケージ紹介

